

若き保守が日本を変える

大切なのは日本の本来の姿を取り戻し、道義大国をつくること。民主党政権の崩壊を機に保守は結集し、激しい思想戦を勝ち抜け

埼玉大学名誉教授●はせがわ・みちこ 長谷川 三千子(コーディネーター)

吹田市議会議員(龍馬プロジェクト会長)●かみや・そうへい 神谷 宗幣

金沢市議会議員(同副会長 自民党)●たかいわ・かつひと 高岩 勝人

前別府市議会議員(同副会長 自民党)●ながの・やすひろ 長野 恭紘

中央区議会議員(同女性部副部長 みんなの党)●かわい・しほ 河井 志帆

【徹底討論】
新総裁、聞いて下さい…



民主党政権が発足する直前の平成二十一年七月、マスコミなどによる無責任な政権交代待望論に危機感を抱いた若手の保守系地方議員が、道義国家の再構築に向けた草の根運動を開始した。全国を行脚して日本再生の同志を募る「龍馬プロジェクト」だ。以来、わずか三年間で二百人規模の議員が集まり、既成政党も無視できない勢力にな

りつつある。永田町で党利党略の政治が続く中、彼ら地方の若き保守は何を思い、何を為そうとしているのか、龍馬プロジェクトの政策研究会などにアドバザイザリ的な立場で関わってきた長谷川三千子・埼玉大学名誉教授とともに、政治の現状と課題について語ってもらった。

ちっちゃな奇跡

長谷川 龍馬プロジェクトが始動してから、三年が経ちましたね。

神谷 無我夢中で全国を駆け回り、あっという間の三年でした。

長谷川 実りも多かったでしょう？

神谷 ええ。最初に集まった地方議員が五人。

それが今では、候補者なども含め二百五十人が賛同する大所帯に発展しましたから。

長野 メンバーが増えただけでなく、「国是十則」という日本再生の根本方針を打ち出すことが出来たのも、大きな収穫だったと思いますよ。も

つともこの間、日本がどんどん悪い方向へと進んでしまったのは何とも残念ですが…(苦笑)。河井 本当に残念。民主党政権の三年間は、いどころが一つもないくらい、政治も経済も外交も失策に次ぐ失策でしたね。その民主党に振り回されてばかりいた野党も同罪。私たち地方議員の目から見て、国民の政治不信は頂点に達しています。政治家は何をしているんだという憤りの声よりも、もう何を期待しても無駄だという諦めの空気が蔓延しているのが、何だかとてもむなし。高岩 そうした既存の政治に対する不信感が、龍馬プロジェクトが急成長する要因の一つになっているわけですから、複雑な気持ちですよ。ただ、国政の見通しが全く暗いわけではないと思

龍馬プロジェクトの「国是十則」

- ① 皇室 元首である天皇と、祭祀を司る皇室を敬い、世界最古の皇統を守り続ける
- ② 憲法 日本の歴史・伝統・文化を重んじた新しい憲法を制定する
- ③ 教育 先人が紡いだ歴史に感謝し、個人の独立自尊の精神を育む国

民教育を行う

- ④ 国防 国家戦略府・国防軍・情報局を創設し、国の主権と国民の生命・財産を守る
- ⑤ 資源 原子力発電の軟着陸と食の安全保障を実現する

安全保障を実現する

- ⑥ 政治 政党を近代化し、憲政の常道を守り、民意を受けた強い政治家を輩出する仕組みをつくる

⑦ 経済 国民が仕事と希望を掴める

- ⑧ 国土 自然への畏敬の念を持ち、国土を強靱化し、地方を活性化する
- ⑨ 安心 努力したものが報われる公正な社会保障制度を確立する

⑩ 暮らし 子の誕生を喜び、長寿を

- ⑩ 暮らし 子の誕生を喜び、長寿を楽しめる、感謝と絆でつながる社会をつくる

う。私が自民党所属だから言うわけではありませんが、安倍晋三元首相が新総裁に選出されたことで、状況が変わってくるのではないのでしょうか。

長谷川 そうですね。民主党の代表選は、最初から結果が分かっていたし、報道も地味でしたが、かたや自民党の総裁選は、テレビが全局生中継という注目度の高さでした。しかもそこでは、参議院議員の山本一太さん曰く「ちっちゃな奇跡が起きた」——。そこでまず、新総裁の誕生をどう捉えるかについて、議論を始めましょう。龍馬プロジェクトの皆さんは、戦後レジームからの脱却を掲げる安倍さんの理念に賛同する方が多いと思います。だからこそ、たくさんの注文もあるのではないですか。

神谷 確かに、安倍元首相の理念と私たちが目指しているものとは、共通するところが多々あります。私自身、安倍元首相と何度かお会いし、その度に「もう一度日本のために立ち上がって下さい」とお願いしてきましたから、今回の総裁によって日本再生の大きな足がかりができたかと期待しています。しかし、不安材料がないわけではありません。今の閉塞した日本を安倍元首相が変えられるかどうかは、その前に、今の自民党を変えら

こんな風でいいのだろうか、もっと積極的に地方と中央との関係を作ってゆくべきではないのか、と思ったのを覚えています。しかし今回の総裁選では、党員票が大きく影響するとあって、各陣営とも地方の声を聞き入れようと躍起になったようですね。それが自民党にいい風を吹き込むかどうか——。自民党に所属する高岩さんと長野さんはどう思われますか？

最大の切り札

高岩 残念ながら、地方の声が総裁選に生かさ



長谷川三千子氏 昭和21(1946)年、東京都生まれ。東京大学大学院人文科学部研究科修了。日本国体論を通

じてヨーロッパ近代思想に批判を加える一方、言語をテーマに日本文化論の基礎を築く営みに取り組み。平成8年、和辻哲郎文化賞受賞。日本会議代表委員。主な著書に「パベルの謎」「民主主義とは何なのか」「正義の喪失—反時代的考察—日本語の哲学へ」など。

れるかどうかにかかっていると思います。

長谷川 どんなふうにか？

神谷 私は無所属ですから、ある程度客観的に判断できると思いますが、これまで全国を回り、千人以上の地方議員と会ってきただけで確信していることは、自民党が一番、優秀な人材がそろっているということだと思います。ところが、そうした人材が必ずしも適材適所で能力を活かしているわけではない。むしろ本来の自民党の党是にはそぐわない、国家観の怪しげな人が重用されたりして、長年のしがらみの中で国会に議席を占めたりする。それが、結局は何事も変えられない、決断できない悪しき「自民党体質」を生んできたと思うんです。だから安倍元首相には、地方の優秀な人材が続々と先頭に立って活躍した幕末のような、自民党の中の維新を起こしてほしいですね。

長谷川 なるほど……。私は政治家でも自民党員でもありませんが、以前、自民党が五十年史を編集するときにお手伝いをしたことがあります。その時とても気になったのは、地方の話が全く出てこないんですね。そのことを指摘したんですが、あっさりとは軽く受け流されてしまいました(苦笑)。自民党は地方に支えられている党なのに、

れたかどうかは疑問です。そもそも党員の投票率は62%で、自民党が野党に転落した直後の前回よりは高かったものの、期待されたほどではなかったんです。党員票では石破茂現幹事長が過半数をとって圧勝しましたが、個別具体的な政策が評価されたというわけではないと思います。先ほど河井さんが指摘したように、諦めの気持ち広がっているのでしょうか。このため新執行部は、よほど意識して地方の声を吸い上げようと努めなければ、変わらないと思います。

長野 同感です。五年前の安倍政権が志半ばで倒れたのも、中央と地方の温度差というのがかなり影響したのではないのでしょうか。安倍政権が掲げた理念に共感した方々は地方にも大勢いたはずなのに、当時「お友達」と呼ばれた中央の一部の人たちだけが突っ走ってしまい、結局、孤立してしまっただけが突っ走ってしまっただけで、地方の声に左右されてばかりでは務まりません。いわゆる「民意」を超越して、百年先を見越した一大決心をしなければならぬときも当然あります。しかし戦後レジームからの脱却は一朝一夕には実現できず、長期にわたる国民運動が不可欠です。安倍元首相は前回の挫折を教訓とし、地方の人材をど

んどん登用して連携を深めるべきです。

高岩 もう一つ、中央と地方の連携において私が注目しているのは青年局長の小泉進次郎さん。

長野 小泉さんはいいですね。

高岩 ええ。それまで自民党の青年部、青年局というのは形骸化していて、どんなに建設的な意見が出されても、「若い者が何を言っているんだ」ぐらいの意識しかなかったんです。ところが一年前に進次郎さんが党本部の局長になってから、がらりと雰囲気が変わりました。地方の若手を集めての勉強会も度々開かれるようになりまし、ご本人にカリスマ性とアピール力があるから、青年局の取り組みがグンと注目されるようになった。その進次郎さんを留任させたところに、今後は地方の声を吸い上げようという安倍新総裁の意思が表れていると思います。

長谷川 安倍さんが新総裁になったのを機に、自民党は長年のしがらみを捨て去り、地方の若い人材を積極登用して体質を変えなければならぬということですね。そもそも安倍さんと石破さんが決選投票に残ったのも、自民党の旧体制が敗北した証拠とも言えます。その意味で、今後は龍馬プロジェクトのような取り組みがますます重要に

当面の最終目標とする日本再建の道のりは遠く、安倍政権だけで実現できるわけではありません。まずは日本再建の流れをつくることが重要で、そのためには保守勢力の結集が不可欠。安倍元首相は総裁選前、日本維新の会を含む他党との連携強化を示唆していましたが、その姿勢をぜひ堅持していただきたいです。

三つのポイント

長谷川 自民党の新総裁に安倍さんが選出されたことは、今の日本を変えていくための、あるい



神谷宗幣氏 昭和52（1977）年、福井県生まれ。関西大学卒業。高校教師として教鞭を執りつつ政治家を志す

すようになり、関西大学法科大学院に進学して修了。平成19年、大阪府吹田市議会議員選挙に無所属で出馬し当選。22年に龍馬プロジェクトを立ち上げ、全国キヤラバンで同志を募る活動をスタートする。23年、吹田市議会議員選挙で再選し、同議会副議長に就任。

22年に龍馬プロジェクトを立ち上げ、全国キヤラバンで同志を募る活動をスタートする。23年、吹田市議会議員選挙で再選し、同議会副議長に就任。

なっていくことでしよう。みんなの党の河井さんは、非自民の立場からどう思われますか？

河井 私も、安倍元首相が掲げる理念に強いシンパシーを感じる一人です。みんなの党の渡辺喜美代表も安倍政権では公務員制度改革などの特命担当大臣として内閣を支えていましたから、方向性は一緒でしょう。ただ、「ちっちゃな奇跡」で安倍元首相が檜舞台に躍り出て、保守層の期待を一身に集めていることに、不安も感じています。安倍元首相は保守層にとって、いわば最大の切り札であり、ここで使っちゃっていいの？という不安。期待が大きいだけに、もしも頓挫したら反動は大きいと思うんです。前回の安倍政権も、突然の退陣後に自民党がガラガラと崩れ、日本再生の流れも急速にしぼんでしまいましたから。

神谷 その不安は、確かにありますね。大切なのは日本を本来あるべき姿に戻すことであり、志を同じくする人たちが応分に活躍していかなければならない。安倍元首相への一点張りのような状態が生まれるとしたら危険です。

河井 ええ。今の政治情勢を考えれば、早ければ年内にも解散総選挙が行われ、再び安倍政権が発足するのは確実でしょう。しかし、憲法改正を
は本来の姿を取り戻すための第一歩であって、これからが正念場だと皆さんお考えのようですね。となると、今の日本の何をどう変えていくのかという根本のところを、ここできちんと整理しておいたほうがいいでしょう。龍馬プロジェクトの中で何度も議論してきたことだと思いますが、改めて、どう考えますか。

神谷 何をどう変えていくかについて、私たちは三つのポイントに分けて整理しています。まず一つ目は、社会の制度疲労と長引く経済不況を打開すること。現在のようには、大学を出ても就職先がない、いつリストラされるか分からない、年金がもたないかどうかさえないかでない——という不安だらけの状況では、何事にも前向きな気持ちになれないし、活力は生まれません。したがってデフレ経済の克服が喫緊の政策課題です。しかし、小手先だけの対症療法ではどうにもならないところまで事態は深刻化している。そこで二つ目のポイントとして、独立自尊の精神を持つことが必要です。戦後の日本は、経済も国防もアメリカの存在なしには成立しない、半ば保護国のような状況に置かれてきました。このため依存心が隅々にまでびこり、国全体としても、個人のレベルで

も、自力解決力を喪失しています。東西冷戦下でアメリカが日本に経済成長を促せばどこまでも上昇していくけれど、冷戦終結後にアメリカの対日政策が変わると、たちまち日本経済は失速して不況から抜け出せなくなる。自立心の欠如による弊害は、経済不振だけでなく政治腐敗、教育荒廃などあらゆる分野に及んでおり、国民一人一人の意識改革が必要です。

長野 三つ目のポイントは、私が説明しましたように。一言でいえば、日本の近現代史を総括し直し、日本人が本来持っていた公德心、利他心、そして国家に対する誇りを取り戻すことです。戦後六十七年間にわたって染み付いてきた依存心の根は深く、自立自尊の精神を持ってと言っただけでは、なかなか自立心は芽生えません。しかし歴史をひもとけば、聖徳太子の「日出づる処の天子」にはじまり、私たちの先人がいかに自立自尊の精神を尊んできたかが分かります。とくに幕末維新から先の大戦までの八十年間は、アジアで数少ない独立国として欧米列強と対峙してきました。たった一度の敗戦によって先人の価値観を全否定し、それゆえに進むべき方向性を見失っているのはあまりに愚かです。日本人はもともと高貴

地悪な問いを発するなら、誰もが納得する結論が出てきた時が一番油断のできない時で、そういう時には得てして大きな見落としのあることが多い。本当にそれは実現可能なものか、根本から問い詰めてみる必要があります。そこで今の三つのポイントを考えてみると、まず最初の経済の問題のうち、大変な難問がひそんでいます。資本主義の経済システムは万人に過酷なレースを押し付けます。金持ちはどんどん裕福になり、貧乏人はますます困窮していく。それに反発して共産主義国家が誕生しましたが、周知の通り、非人道的な傷跡を残して瓦解しました。いまや、資本主義の過



高岩勝人氏 昭和42（1967）年、石川県生まれ。石川県立富来高校卒業。贈答品販売関連会社を創業すると

ともに、金沢青年会議所に所属し、経済活性化策や国際交流事業などにも取り組む。平成19年、金沢市議会議員選挙

に自民党から出馬し当選。現在は自民党金沢支部の財務委員長、自民党石川県連の青年局長を務める。22年、龍馬プロジェクトに参画し、副会長に就任。

な精神性を持っているのですから。河井 東日本大震災で、その精神性が証明されましたよね。あの時、日本人の利他的で沈着冷静な行動を世界中が賞賛しました。

長野 まさにそうです。非常時にこそ人間の本性が現れる。問題はそれを、平時でも発揮することですが、そのためには、いわゆる東京裁判史観を排し、曇りのない目で日本の歴史を学ぶべきでしょう。私自身がそうでしたが、日本の歴史を知れば知るほど、日本が好きで好きでたまらなくなります。同時に、先人に対する感謝の気持ちで胸がいっぱいになり、自分たちも頑張らねばと、自然に前向きな気持ちになります。そしてその先に、私たちが目指す国家像、すなわち本来あるべき日本の姿が見えてくるんです。

経済成長と道義性

長谷川 なるほど……。それが、龍馬プロジェクトが掲げる道義国家につながっていくのですね。政治の世界に身を置く若い皆さんが、そのような力強い意識を持っていることには、大いに勇気づけられます。ただ、議論を深めるために敢えて意

酷なレースには歯止めがきかなくなり、金融マネーゲームや、サブプライムローンのような詐欺まがいの手法まで出てくる。そこに、高貴な精神性だとか公德心だとかを持ち出しても、この大洪水のような経済の流れの中で、どれほどの力を持つうるのか。

高岩 とても難しい問いですね。しかし、資本主義の本質が剥き出しになっている現在だからこそ、日本式の道義性が必要になってくるという見方も出来ると思います。問題となるのは「格差」。人間社会に格差はつきものですが、これが一線を越えたとき、激しい揺り戻しが起きる。フランス革命も共産革命も、格差が一線を越えてしまったことが原因でした。では、現在はどうか——。金融マネーゲームが激しくなるにつれて、いよいよ一線を越えつつあると感じています。資本主義経済の権化ともいえるアメリカでさえ、昨年には世界規模の格差デモ「ウォール街を占拠せよ」が起きました。日本も同じで、自分はいくら働いても報われないのに、濡れ手に粟のような金持ち連中がいるのはおかしいじゃないかという不満、不信、怨嗟の音が、国民の間に増大している。さあ、そこで道義性の出番です。この格差が一線を

っているなら売ってしまえばいい」と…(苦笑)。

長野 結局、自分の国のものは、自分たちで守つていかなければという意識が希薄なんです。自分たちの主権が侵されつつあるという危機感もない。どうせ誰かが守ってくれると甘えている…。

保守層の一部にも日米安保を過大評価する意見があります。安倍新総裁がよく言われるように、まず日本人が血を流さなければ、アメリカの兵士が日本のために血を流すこともないわけです。まずは国民が独立自尊の気概を持たなければ。

長谷川 でも、それが難しい(苦笑)。

神谷 難しいです。だからこそ三つ目のポイントである近現代史の総括、曇りのない目で歴史を見直す作業が必要になってくる。先ほど長野さんが言ったように、日本の歴史を知れば間違いなく日本を好きになるし、日本人であることの自信と誇りを持つようになるものです。ところが多くの日本人は…

高岩 …歴史を知らない。そう言えば、こんな話も聞いたことがあります。大学生同士の会話で、「おい、日本って昔、アメリカと戦争してたんだってさ」、「マジ? で、どっちが勝つたの?」…。これが現実ですよ。

それを正そうとすることを許さないでしょう。日本は敗戦国であり、その立場は戦後六十七年が経っても変わりません。もう一度戦争をして日本が勝てば、文句なく歴史を取り戻せますが、それはいま出来ないでしょうか?

神谷 そこまでは…

長谷川 いまの日本の軍事力でそれは出来ないし、またすべきでもありません。しかし戦争をしないととなると、それに匹敵するほどの激しい思想戦を覚悟しなければなりません。戦勝国のつくった世界秩序に挑戦するわけですからね。しかも、敵は外国だけでなく、国内にもいるわけです。歴史



河井志帆氏 昭和51(1976)年、福岡市生まれ。早稲田大学卒業。証券会社や外資系金融機関で11年間、金

利・為替マーケットに従事する。平成23年、東京都中央区議会議員選挙にみんなの党から出馬し当選。同区のみん

の党政調会長、地域主権型道州制国民協議会支部長、東京青年会議所書記幹事を務める。龍馬プロジェクトの理念に賛同し、24年、女性部副部長に就任。

河井 学校の歴史の授業の進め方にも問題がありますよね。きちんと説明するのはせいぜい江戸時代までで、学年末が近づいてくると大慌てで明治時代を済ませ、あとは自分で教科書読んで…

—みたいな(苦笑)。

神谷 驚くことに政治家ですら、自国の近現代史をほとんど勉強していません。とくに若い議員の歴史音痴には唾然とさせられることがあります。政治家向けの歴史勉強会に出ると、参加者は年配の方ばかりですから。逆に、歴史を学んでいる人は意識も高いですね。そういう人たちが龍馬プロジェクトに集まってくる(笑)。だからまず、私たちが率先して近現代史の総括を行い、政治家として必要な国家観と歴史観を高めていく運動をしていきたいと考えています。

長谷川 それは素晴らしい—と言いたいところですが、誰もが納得する結論が出てきたときが一番油断のならないときで…(笑)、またまた意地悪な突っ込みを入れますと、現在世界に流通している近現代史はいわゆる東京裁判史観—連合国は善、枢軸国は悪という、きわめて偏った史観です。これは中国や韓国、そして何よりアメリカにとっては実に都合のいい史観で、彼らは日本が

を取り戻すことの難しさは、教科書改善運動の苦難の歩みをもても分かる通りです。皆さんに、この厳しい思想戦を戦い抜く覚悟はありますか?

神谷 それは大丈夫です。

高岩 生半可な気持ちで龍馬プロジェクトをしているわけではありませんから。

保守結集の先駆けに

長谷川 それを聞いて安心しました。するとあとは、具体的にどう戦っていくかですね。最初の話題に戻ると、年内にも解散総選挙が行われ、戦後レジームからの脱却を掲げる安倍さんが首相に返り咲く可能性が極めて高い。同時に、激しい思想戦のゴングが鳴ります。いや、すでに場外戦が始まっていると言っているでしょう。三千五百円のカツカレーを食べただけで庶民感覚が無いのだと批判されるのですから…。しかし安倍さんは、今度こそ最後まで戦い抜かなければなりません。少なくとも日本再生の流れが軌道に乗るまではね。そこで皆さんのような地方の若い保守が、どのようにバックアップしていくかということが問われてくるわけです。その点について、何か方針

はありますか。

神谷 予想される安倍政権の発足について、連携などの方針を立てているわけではありませんが、私たちが今の活動を続けていくことが、日本再生の理念を貫くバックアップにもなると考えています。志の高い人材はまだまだ地方に大勢いるので、どんどん発掘し、政党の枠を越えた龍馬プロジェクトに引き込んでいきたいですね。例えば橋下徹大阪市長の日本維新の会なども、今後よい人材が集まってくるのであれば、協力できるところは一緒にやっていきたい。

長谷川 橋下さんの新党は、信用できるかしら。
神谷 それを聞かれると辛い(苦笑)。ただ、新しい組織ですから中の人が入れ替われば、よい風に変えられる可能性もあると感じています。今のところは選挙互助会の枠を出していませんが…。

長野 少なくとも次期衆院選の候補者の顔が見えてこないかと、判断できませんよ。

高岩 厳しい見方も知れませんが、素人集団というのも不安材料。前回総選挙で民主党が大躍進し、小沢ガールズをはじめ素人議員が大量に誕生しましたが、その大半は、議席の一つを占める以外に国会議員らしい仕事をしているとは思えま

と、道義大国をつくりあげることですからね。日本維新の会が掲げる政策の中には、憲法改正をはじめ私たちが以前から主張してきたことと重なる部分が多くあります。本気でそれを実現する気があるかどうかは大いに疑問ですが、この政策を掲げるかぎり協力できる余地はあるでしょう。長谷川先生が繰り返し強調されたように、これから激しい思想戦を戦い抜く上で、維新ブームの流れを利用しない手はありません。安倍元首相が率いる自民党にも、私たちなりに下から大同団結を求めていきたいと考えています。坂本龍馬の最大の功績は、犬猿の仲の薩摩藩と長州藩を結びつけた薩長同盟でした。これにより三百年続いた江戸幕藩体制という巨木が倒れ、明治維新が実現したのです。私たち龍馬プロジェクトも、志を同じくする者、グループ、政党が連携して現在の閉塞状況を打破する。接着剤の役割を果たしていきたいと思っています。

歴史が与えたチャンス

長谷川 「橋下新党」というと胡散臭い印象ですが、「維新の会」という名が何となく世の人に

せん。それでも民主党は役職に国政のプロがいるから、フラフラしながらも何とか政党の体をなしています。日本維新の会にはそうした国政のプロもいない。仮に次期衆院選で大躍進し、自民党と組むとなると、そうした素人議員の何人かは副大臣か政務官になるわけです。これって、何だか怖くないですか。もちろん中には優秀な人材もおられるようですが…。

長野 ただ、最近少し驕りがでてきたとはいえずその素人集団が依然として注目を集めているのは、既成政党に対する不信がまだまだ根強いからであって、そこは自戒しないといけない。

河井 非自民の、比較的素人の立場から言うのと、よく知らないから突っ走れるという部分もあるのではないのでしょうか。何か大きなものをつくるためには、今そこにあるものを壊さなければならぬのであって、しがらみのある人たちではなかなかできません。幕末維新の先駆者たちでも、プロとは言えない地方の下級武士たちでした。志を同じくする素人とプロが、お互いの持ち味を生かしながら連携していくべきだと思います。

神谷 大切なのは日本の本来の姿を取り戻すこ

期待を抱かせているところはあるでしょうね。そういうえば皆さんも「龍馬プロジェクト」…(笑)。ただ、維新とは、何でも変えればよいということではない。むしろ日本の大本を取り戻すための大改革が明治維新だったわけで、その点からすれば皆さんの方が「維新」の本道だと胸を張っていると思いますよ。

またその意味で、今回の自民党総裁選の全体スローガンが「日本を取り戻す。」だったことは象徴的です。自民党自体が、半世紀前の結党の精神に立ち返らなければ、との危機感を持ったということでしょう。その中で安倍さんが新総裁に選ばれたのは、むしろ当然と言うべきかも知れません。

この「日本を取り戻す」大事業は、本当に困難な道なりとなるはず。これを応援しようとする人たちが気をつけなければならぬのは、せつちかちになりすぎることです。安倍政権になったとしても、急ににもかまが変わるわけではない。大事業であればあるほど、一步一步でいぬいに進めなければならぬので、それを気長に応援してゆくことが大切でしょう。そういう大事業の一步一步を支えてゆけるのは、皆さんのような若い力だと思えます。ぜひ頑張ってください。